

教育学部生活創造専修ものづくりと情報・技術分野カリキュラムマップ

養成人材	教職及び教科に関わる学問並びに芸術・スポーツ諸領域の総合的な研究及び教育を通して広く教育の発展に寄与し、主体的で豊かな人間性を基底としつつ教職に必要な専門的な知識・技能を身につけた、理論及び実践の両面にわたる力量ある質の高い教員の養成				
学位授与の方針	<p>①専門的な深い知識の修得に関連する事柄</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課程・コース・専修等ごとに定められた教育に関する専門的な知識・技能 ・教職に関する専門的な知識・技能 ・教科や専門分野に関する専門的な知識・技能 <p>②専門性のある幅広い基本的知識の修得に関連する事柄</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育の基盤となる基本的知識、態度、能力 ・日本国憲法に関する基本的な理解 ・心身の健康に関する基本的な理解と態度 ・人文学・社会科学・自然科学に関する幅広い理解 ・英語を用いて意思を疎通させる能力 ・情報リテラシーとプレゼンテーション能力 <p>③学部における人材養成の目的に合致した資質・能力の獲得に関連する事柄</p> <ul style="list-style-type: none"> ○力量のある教員に必要な知識・技能を活用できる能力 ・教科や専門分野に関する知識・技能を指導に生かすための方法的技術 ・教育実践を通じた子供理解と実践的指導力 ○教員に求められる人間性と社会性 ・教員としての使命感や責任感、教育的愛情 ・教員としての社会性や対人関係能力 ・社会貢献への強い意欲 ・学び続ける姿勢 				
年次	授業科目	到達目標	教育目標 1：教育学部では、力量のある質の高い教員養成を主眼とする。	教育目標 2：教育学部では、課程専修分野ごとに専門的教育を行い、教職の専門性と学問・文化の専門性の両方を修得させる。	教育目標 3：卒業要件として教員免許の取得を必修とし、教員免許・資格の取得に必要な教育課程を編成する。
1	電気技術の基礎（実習を主とする）	<p>A・電気の社会的利用の現状を理解し、電気技術の歴史、文化、生活、環境への影響、役割を理解する。</p> <p>B・電気の基本的性質や電気・電子回路の基本原則、製作物の信頼性を高める方法を理解する。</p> <p>C・基本的な電気電子部品、測定機器の安全で効率的な使用方法を身につける。</p> <p>D・基本的な回路の動作原理を理解するとともに、適切な部品や測定機器を選択し、発生する課題を把握し、適切に対応することができる。</p>	◎	◎	○
1	電気技術の応用	<p>A・電気の社会的利用の現状を理解し、電子技術の歴史、文化、生活、環境への影響、役割を理解する。</p> <p>B・電気の応用的性質や電気・電子回路の応用事例、製作物の信頼性を高める方法を理解する。</p> <p>C・応用的な回路の動作原理を理解するとともに、適切な部品や測定機器を選択し、発生する課題を把握し、適切に対応することができる。</p>	◎	◎	○
1	栽培技術の基礎（実習を主とする）	・小学校における特別活動に関する基礎理論を学ぶ	◎	◎	○
1	情報とコンピュータ（実習を主とする）	技術科教育における情報教育の目的を理解し、生徒を指導する上で必要とされる情報及びコンピュータの基礎的な知識を身につけ、教科指導へ生かすことができる。さらに、プログラミング（JAVA）の演習を通してプログラム言語の基本構造を理解し、基本的なアルゴリズムを使ったプログラムを作成できる。	◎	◎	○
1	製図の基礎（実習を主とする）	<p>1）正確で、美しい図面に仕上げるができる。</p> <p>2）読図、作図の方法と基本スキルを習得している。</p> <p>3）JIS規格を基礎とした製図通則を把握し、理解している。</p> <p>4）製図指導方法に必要な知識と技能を習得している。</p> <p>5）コンピュータを使った製図の方法と産業における役割について理解している。</p>	◎	◎	○
2	木材加工の基礎（実習及び製図を含む）	<p>1）木材利用の歴史や森林資源利用の現状、環境とのかかわりについて理解する。</p> <p>2）木材の基本的性質や工具や機械の基本原則、安全で効率的な使用方法を身につける。</p> <p>3）木材加工の製作題材における評価の視点を理解し、自身の学習成果物を適切に評価することができる。</p>	◎	◎	○

2	金属加工の基礎（実習及び製図を含む）	金属加工が好きになり、自ら進んで新たなもの創りに挑戦することができる。	◎	◎	○
2	機械技術の基礎（実習を主とする）	機械の基礎となる原理を簡単な実験や演習を通してその理解を深める。題材は中学校等で実施されているものを取り上げ、講義と機械に係る教材製作を実施する。機械について基礎的な理論や概念的なものではない実質的な技術を習得し、機械に関する技術指導に必要な説明・支援方法を学び、教員としての資質と実践力を高めることを目指す。	◎	◎	○
2	環境問題と技術	生物育成に関連する地球環境問題等の概要とその相互関係について把握するとともに、様々な対策技術について理解する。	◎	◎	○
2	材料と加工	機械部品は工業材料からなり、機械設計の際に適用する各種工業材料の基本的な性質や用途の理解を深める。また、設計の他に、素材の加工を行うためには、金属組織や材料強度などの基本的な知識が必要となる。本講義では、中学校技術で必要な「材料と加工」分野に対応できる、基本的な工業材料の知識を習得することを目的としている。	◎	◎	○
2	ものづくりと教育	1) 社会におけるものづくりと科学技術のかかわりについて理解する。 2) 科学・技術教育におけるものづくり学習の意義、ねらい、方法について理解する。	◎	◎	○
2	ロボット入門演習	A・ロボット技術の社会的利用の現状を理解し、その歴史、文化、生活、環境への影響、役割を理解する。 B・ロボット技術の基礎的性質を理解する。 C・基本的なロボット技術の原理を理解するとともに、適切な部品や機器等を選択し、発生する課題を把握し、適切に対応することができる。	◎	◎	○
2	ロボット制御基礎	中学校技術科の「エネルギー変換に関する技術」や「情報に関する技術」で利用するロボット教材に関する、基本的な知識と技能を習得する。	◎	◎	○
3	木材教育の方法	1) 森林資源、木質材料とその利用技術の概要について理解し、説明できる。 2) 森林資源、木質材料およびその利用技術について正しく指導できる。	◎	◎	○
3	木材加工応用実習	1) 木工具、木工機械を適切に、安全に使用し、管理することができる。 2) 木工具、木工機械を使用して、木製品を製作することができる。 3) 合板、パーティクルボードなどの木質材料の性質を活かした製品の設計、製作ができる。	◎	◎	○
3	生産システム技術	多くの加工法について概説する。材料に付加価値を与える加工技術の重要性を把握する。また、機械設計に必要な基本的な材料力学、塑性力学も学ぶ。中学校技術の教材を作製する際の足掛かりとする。	◎	◎	○
3	メカトロニクスと要素技術	各種機械要素の習得および簡単な機械設計ができるよう基礎的な力学を習得する。中学校技術の教材を作製する際の足掛かりとする。	◎	◎	○
3	機械設計技術	各種機構が果たす役割や構成など理解し、基礎知識を習得する。中学校技術の教材を作製する際の足掛かりとする。	◎	◎	○
3	栽培の理論と実践	作物の分類、遺伝的性質、栽培環境、植物育成に関する技術、および栽培と環境とのかかわり等に関する講義を通じて、栽培技術の理論と授業実践への応用について理解する。	◎	◎	○
3	栽培環境	栽培植物（主に作物）の生育と環境に関わる基礎的事項から、耕地生態系、農業資源の持続的 management、および栽培における気象的要素、土壌的要素、生物的要素等について理解する。	◎	◎	○
3	栽培植物	栽培植物に関する分類方法および各栽培植物の特徴を知り、各栽培植物に応じた適切な管理技術について理解する。	◎	◎	○
3	技術科教材開発論	中学校技術科における教材・教員の認識を深め、学習の定着を支援する教材・教員を開発し、それらの活用方法を検討する中で、レジユネス、学習手段、授業設計、学習評価、教師の役割と責務を実践的な視点で捉える。	◎	◎	○
4	論文	技術教育に関する調査・研究を進め、独創性・新規性のある成果を追求、達成することができる。成果をまとめ、卒業研究発表会等でわかりやすく発表することができる。	◎	◎	○

教育学部生活創造専修家庭科分野カリキュラムマップ

養成人材	教職及び教科に関わる学問並びに芸術・スポーツ諸領域の総合的な研究及び教育を通して広く教育の発展に寄与し、主体的で豊かな人間性を基底としつつ教職に必要な専門的な知識・技能を身につけた、理論及び実践の両面にわたる力量ある質の高い教員の養成				
学位授与の方針	①専門的な深い知識の修得に関連する事柄 ○課程・コース・専修等ごとに定められた教育に関する専門的な知識・技能 ・教職に関する専門的な知識・技能 ・教科や専門分野に関する専門的な知識・技能 ②専門性のある幅広い基本的知識の修得に関連する事柄 ○教育の基盤となる基本的知識、態度、能力 ・日本国憲法に関する基本的な理解 ・心身の健康に関する基本的な理解と態度 ・人文学・社会科学・自然科学に関する幅広い理解 ・英語を用いて意思を疎通させる能力 ・情報リテラシーとプレゼンテーション能力 ③学部における人材養成の目的に合致した資質・能力の獲得に関連する事柄 ○力量のある教員に必要な知識・技能を活用できる能力 ・教科や専門分野に関する知識・技能を指導に生かすための方法的技術 ・教育実践を通じた子供理解と実践的指導力 ○教員に求められる人間性と社会性 ・教員としての使命感や責任感、教育的愛情 ・教員としての社会性や対人関係能力 ・社会貢献への強い意欲 ・学び続ける姿勢				
年次	授業科目	到達目標	教育目標 1：教育学部では、力量のある質の高い教員養成を主眼とする。	教育目標 2：教育学部では、課程専修ごとに専門的教育を行い、教職の専門性と学問・文化の専門性の両方を修得させる。	教育目標 3：卒業要件として教員免許の取得を必修とし、教員免許・資格の取得に必要な教育課程を編成する。
1	家庭経営学	家庭科の家庭経営領域の基礎的な事項を理解する。具体的には、以下の通り：生活のなりたちについて説明することができる。主に、生活時間、労働、生活の保障に関する現状と課題について、考え、説明することができる。	◎	◎	○
1	被服学	生活と家庭科の関わりから衣生活を考える。	◎	◎	○
1	食物学	食品を構成する成分を知り、その変化について理解する。	◎	◎	○
1	食品栄養学	食品成分の体内での動態および役割を理解する。	◎	◎	○
1	調理実習	基本的な調理操作を身に付ける。 調理を科学的な視点で見られる。	◎	◎	○
1	住居学A（製図を含む）	住まいおよび住生活に関する基礎的知識を身につける。基礎的な製図の技術を習得する。	◎	◎	○
1	保育学（実習及び家庭看護を含む）	胎児期から乳幼児期の子どもの成長・発達、生活の中の子どもの姿に着目し「育つ」こと「育てる」ことについて学ぶ	◎	◎	○
1	家庭電気・機械・情報処理	家庭電気・機械の仕組の理解とパソコンによる情報加工の基礎スキルの習得	◎	◎	○
2	生活経済学	家庭科の家庭経営領域の特に家庭経済に関する基礎的事項を理解する。具体的には以下の通り：家計に関する基本概念について説明することができる。家計に関する統計資料を読み取ることがができる。調査資料をもとに生活の経済の諸側面の現状と課題について、考え、説明することができる。	◎	◎	○
2	被服学実習	簡単な被服を製作できる。服を着ることの意味を考える。	◎	◎	○
2	調理科学	食品の調理科学的性質を理解する。	◎	◎	○
2	住居学B	日本における住宅の変遷を理解し、自分なりに新しいすまいの提案ができる	◎	◎	○
2	子ども・子育て支援論	世界の子育て、日本の子育てについて学ぶ。特にESDとの関連で考察する。	◎	◎	○
2	家政学基礎実験	自ら手を動かし考えながら実験を行うことにより、食品の構成成分および特性を理解する。 食品成分の分析方法を理解する。	◎	◎	○
3	消費生活論	家庭科の家庭経営領域の基礎的知識をもとに、特に消費生活について自身で生活上の課題を探索する方法を身につけ、家庭科教育での活かし方を考える。具体的には以下の通り：統計調査を活用し生活実態の把握ができる。消費生活に関する問題と消費者政策の現状を理解し、それらを踏まえた消費者としての課題を考えることができる。	◎	◎	○

3	家族と法律	家庭科の家庭経営領域の基礎知識をもとに、現代における家族や家庭生活と、それをとりまく社会の変化や現代的課題に対して、特に、法制度（主に家族法）がどのように対応しているのかを考えることを通して、家庭生活と法律との関わりに関する知識を修得することを目指す。	◎	◎	○
3	食品栄養学実験	自ら手を動かし考えながら実験を行うことにより、食品の構成成分および特性を理解する。 食品成分の分析方法を理解する。	◎	◎	○
3	調理科学実験	食品の調理性を理解する。 科学レポートの書き方が身につく。	◎	◎	○
3	生活環境論	すまいを取りまく環境と生活との関わりについて理解し、環境に配慮した生活を実践できる	◎	◎	○
3	生涯発達と家族	子どもの発達と子どもを取りまく多様な人間関係、現代家族が抱える問題について学ぶ。 自身の育ちの原点としての家族を理解し、教師として接する家族を理解する力を育てる	◎	◎	○
3	家政学演習	小・中・高等学校の家庭科における各専門領域の内容についての理解を深めるとともに、卒業論文として取り組むテーマを明確にし、先行研究の整理あるいはテーマに関する現状の課題をまとめることができる	◎	◎	○
4	論文	卒業研究を通し、主体的・計画的取り組み、考察を行い、卒業論文としてまとめる。研究の方法を習得し、一定の知見を得る。	◎	◎	○